



◇第53回鳳凰の開祭にあたり◇ 生徒会長(島田 侑奈さん)

今年の鳳凰祭のスローガンは、「耀(かがや)き～この瞬間(とき)を青春の1ページに～」全員が耀いてほしい、仲間と過ごす一瞬一瞬を大切にしたいという願いが込められています。

限られた条件、時間の中で各クラス、精一杯準備をし、練習をしてきたと思います。この2日間では、今までの取組を全て出し切り、みなさんの鳳凰祭にかける思いを全力でぶつけてください。

ひとひとりの力が集まれば、今まで越えられなかった壁も、乗り越えることができるはずです。また、そんな姿は耀きを持っていると思います。全校のみなさんが、耀ける姿を発揮できる鳳凰祭になることを願っています。鳳凰祭ができることに感謝し、思い出深い2日間にしましょう。

全校が同じ場所で感動を共有

2日間の鳳凰祭のおわりに

校長先生から

第53回鳳凰祭が幕を閉じようとしています。みなさんはこの2日間様々な耀く瞬間を青春の1ページとして刻むことができたのではないのでしょうか？

例えば、学校生活をユーモラスに描きながら鳳凰祭テーマに関わる謎解きのワクワク感を引き出した生徒会企画による開催セレモニー。

意見文発表ではエコバッグをプラスチックゴミをみんなで減らすことへの願いや、医療従事者に感謝の思いを持つことの大切さ、また、自尊心や自己流の心の保ち方を持つことが大事だということについて自分の主張したいことを根拠を上げながら、説得力のある提案をしている姿が見られました。また、ギャラリーから仲間の意見に、自分の意見を重ねていく姿もたくさん見られてとても良い姿だと感じました。

英語スピーチでは、サッカー選手や編集者になりたいという将来の夢についてや、決して諦めない生き方をしているバドミントンの桃田選手への思い、人種差別の問題から友達を作ったり平和を築いたりする大切さについて、身振り手振りをつけながら自分の思いを分かりやすい発音の英語で堂々とスピーチをする姿が見られました。とてもすばらしかったと思います。

It's show time!ではライブ発表と高度な編集を伴った動画で、出場した方々の普段見ることのできない魅力が、私たちを笑いと感動につつんでくれました。

小布施スポーツスタジアムでは、仲間と心をつなげて精一杯の力を出し切っている、みなさんのひとりひとりの姿、そして各クラスが記録を狙っているときに一緒に応援している姿が印象的でした。

そして今日の吹奏楽部の発表では、生き生きと演奏している部員のみなさんの耀きが会場全体の心をつかんで、全校の気持ちを一つにしていく素晴らしい演奏でした。

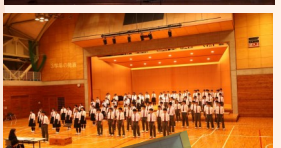
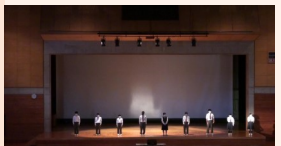
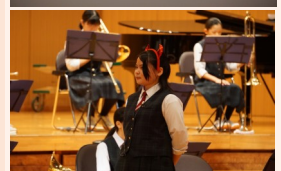
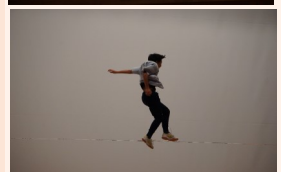
また音楽会では、今年は本当に練習をするのに苦労したと思いますが、各学級各学年ひとりひとりがこれまでの最高の自分を耀かせて仲間と力を合わせて気持ちを込めて歌っている姿が本当に素晴らしかったです。感動でした。

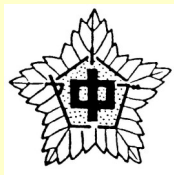
発表や活動以外でも創作部の方々による鳳凰の立体モニュメントや、保健委員会による大きなアマビエなど、青春の1ページとしてみなさんの記憶に刻まれたと思います。今、紹介したこと以外にもみなさんの胸の中に自分や仲間の耀く姿が、またその瞬間がたくさん青春の1ページとして刻まれたと思います。

本年度は困難の中、限られた環境の中でのみんなで知恵を出し合って力をあわせて素晴らしい鳳凰祭をつくりあげることができました。このように逆境の中でも、目標達成に向けて努力していく力、この力はこれからの予測困難な時代を迎える私たちに必要な力になると言われています。

このような力を発揮しながら素晴らしい鳳凰祭にできたのも、小布施中の3年生が良い姿を見せてくれたこと、2年生が次の代を引き継ぐつもりで臨んでくれたこと、1年生は初めての鳳凰祭に思い切り取り組んでくれたことなどがあると思います。そして、このような努力をすることができるのも、仲間や先生方、家族、地域の方々など多くの人の支えがあるということを忘れてはいけないと思います。

様々な方への感謝を忘れずに、そしてみんなで団結して充実した鳳凰祭をすることができた。このことに自信を持って、これからの学校生活をさらによりよいものにしていきましょう。2日間、素晴らしい鳳凰祭でした。この感動をありがとうございました。





令和2年度 小布施町立小布施中学校

学校便りNo.7

目に新しくき眼もて



令和2年10月8日発行



第53回鳳凰祭開催にあたり

校長先生から

第53回鳳凰祭が、みなさんひとりひとりの気持ちが揃って、ここに開催できることをうれしく思います。

本年度はコロナ禍の中で学校生活がスタートしました。例年とちがう様々な場面で、限られた環境の中で、中学校生活を来ることになりました。しかしみなさんは、持ち前の明るさや誠実さをもって、その時々、困難を乗り越えながら前向きに学校生活をおくってきました。

また、鳳凰祭に向けた学級や学年での歌練習も、場所や隊形など感染防止に注意をしながら、朝や放課後に美しい歌声が学校中に響き渡りました。

小布施スポーツスタジアムに向けた練習も、限られた時間の中で、クラス一丸となって取り組んでいる姿がたくさん見られました。みなさんはこのように、4月から困難の中にも、前向きに取り組んできました。その瞬間瞬間を大人になって振り返ったときに、耀く青春の1ページになっていると思います。

さて、困難な中にも、輝きを放っている人として水泳の池江璃花子選手がいます。白血病による闘病生活を乗り越えて、先月の東京都特別大会に594日ぶりにレースに復帰しました。女子自由50m自由形で26.32秒という記録をマークして、インターカレッジの参加標準記録を突破し、出場権を得ました。彼女は去年、同じインターカレッジの競技の様子を参観したときに、「来年は絶対にこの舞台に出る。」という決意をしました。そして、今年の三月からプールの練習を再開し、出場を目指していたそうです。逆境の中でも目標を見失わず努力を積み重ね、当日力を発揮する姿は本当に素晴らしいと感じました。

今日からいよいよ2日間、これまで学校生活や準備してきたことを最大限に発揮する鳳凰祭が始まります。それぞれの学級や学年、また個別に取り組んできたことを同じ場所で発表し合い、活動し合って感動を共有する2日間です。みなさんひとりひとりがこの2日間で、それぞれ主役となって、みんなで青春の1ページとなる、充実した鳳凰祭をつくりあげていきましょう。

今回は保護者地域の皆様、また来賓の皆様には新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ご来校をご遠慮して頂いてますことに、ご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

それでは第53回鳳凰祭が始まります。一瞬一瞬が青春の1ページとなるようみんなで力をあわせていきましょう。

